



THEインパクトランキング2023 SDG3で世界7位（2年連続国内1位）

2023年6月にイギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education（THE）」が発表したTHEインパクトランキング2023で、本学は総合ランキングで世界201-300位、国内同率9位にランクインしました。

このランキングは、国連が掲げる「持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals（SDGs）」に対して、大学がいかに関わり、社会に影響を与えているかを可視化したランキングです。2019年から始まったランキングで、今回で5回目となります。

SDG別のランキングでは、本学はSDG3「すべての人に健康と福祉を」において世界7位（2年連続国内1位）となるなど、高い評価を受けました。



SDGsグッズ「余り紙メモ帳」が完成

SDGsセンターでは、学内外の方にこれまで以上にSDGsについて考えていただけるよう、SDGs貢献グッズとして「余り紙メモ帳」を作成しました。

余り紙メモ帳の紙は、印刷工場では通常は廃棄される印刷物の余り紙を利用して、紙資源を無駄なく使うことに貢献しています。

また、余り紙メモ帳の一部の紙は「ワクチンペーパー」を使用しており、「世界の子どもにワクチンを日本委員会（JCV）」を通して世界の子どもたちにワクチンが贈られるしくみとなっています。

利用をご希望される方は、SDGsセンター事務局までご連絡ください。



生協学生委員会リ・リパックの回収率が全国5番目の高さ

本学生協学生委員会では、滝子キャンパスの生協食堂で販売されているお弁当容器を回収しリサイクルする「リ・リパック」活動を推進しています。2021年9月に滝子キャンパス2か所で回収を始め、学生からの要望を受けて1か所増やし、現在では滝子キャンパス内の「購買横旧七色亭」「2号館3階」「1号館2階」の3か所で容器を回収しています。

このリ・リパックは全国の大学生協で実施されており、本学の2022年度の年間容器回収率は73.58%で、全国5番目の高さとなりました。

本学生協学生委員会では、今後もより多くの容器を回収できるよう、学生や教職員に働きかけていく予定です。



2号館3階の
← 回収場所
の様子

リ・リパック活動を
推進している
生協学生委員会の
学生たち



ここでは、SDGs 17ゴールについて、ゴールごとに紹介します。今回は、SDG11（住み続けられるまちづくりを）について紹介します。

11 住み続けられるまちづくりを



Goal11. 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する

SDG11に関連する本学の取り組み例（SDGs活動レポートより）

「SDGsが繋ぐ名古屋市と未来～健康と福祉のために大学ができること～」SDGsセンター主催シンポジウムを開催しました



活動の概要	<p>本学は3月18日、SDGsセンター主催シンポジウム「SDGsが繋ぐ名古屋市と未来～健康と福祉のために大学ができること～」を本学市道通キャンパスで開催しました。</p> <p>これは、大学の持続可能な開発目標（SDGs）への取り組みを評価するTHEインパクトランキング2022において、名古屋市がSDG3「すべての人に健康と福祉を」部門で全国1位（得点21位）となったことを記念して開催したものです。</p> <p>当日は、SDGsセンター長の林秀敏教授（都市学研究所）による開会挨拶に続き、基調講演として、富山大学附属病院の山城清二名譽教授に「大学がつかなく健康と福祉とコミュニティ」というテーマでご講演をいただきました。その後、健康と福祉に貢献している名古屋市の活動紹介として、企業看護地域参加型学習とPiGo projectの指導教員と代表学生によるプレゼンテーションが行われました。</p> <p>当日は本学の教職員、学生のほか、企業関係者、他大学教職員、自治体職員など、51名が参加しました。参加者からは「大変、勉強になりました。山城先生の熱意に多くの人が賛同して、パートナーシップが築かれていったことに感動しました。山城先生の考え方を少しでも取り入れ、今後の業務に当たりたいと思いました。」「学生の頃から地域に出て学ぶことは、医療人のマインドを育成するために非常に有効だと感じました。また、自ら課題を探し解決策を見出す姿勢も素晴らしいと思いました。このような教育を受けている名古屋市の学生さんが羨ましいです。」などの声が寄せられました。</p>
活動の時期	2023年3月
関連URL	「SDGsが繋ぐ名古屋市と未来～健康と福祉のために大学ができること～」SDGsセンター主催シンポジウム



SDGsセンター長 林教授による開会挨拶



富山大学附属病院 山城清二名譽教授による基調講演



企業看護地域参加型学習 代表学生による発表



PiGoプロジェクト 代表学生による発表

名古屋市立萩山中学校、矢田中学校の生徒が本学人文社会学部曾我研究室を訪問



活動の概要	<p>2023年1月26日木曜日に名古屋市立萩山中学校から2年生6名、2023年1月27日金曜日に名古屋市立矢田中学校から2年生5名が本学人文社会学部心理教育科曾我研究室を訪問しました。SDGsの学びが中学校でも始まるようになり、探求学習の一環としての訪問でした。</p> <p>26日に訪問した萩山中学校の6名は、はじめに自己紹介をした後で、これまでの自身の学びである「フェアトレード」についてパワーポイントを使って発表しました。発表を聞いて、いくつかの質疑応答をした後で、SDGsやESDについて事前に受けていた中学生からの質問に応えました。訪問を終えた中学生からは、後日丁寧な手紙が送られてきました。手紙には、訪問を通して学んだことがそれぞれ書かれていました。</p> <p>27日に訪問した矢田中学校の5名は、「造土国と先進国の教育事情の違い」に関して事前に提出していた項目をもとに質問し、その回答から世界の子どもたちの教育環境についての理解を進めました。矢田中学校からの依頼は、本学SDGsセンターへの問い合わせから始まり、連絡をくださったキャリアコーディネーターの方から、SDGsに関連する諸活動をしている本学大学生とぜひ交流させたいという強い思いのもと実現しました。当日、曾我准教授の他に、昨年度からSDGsに関する取り組みをしていたゼミ生2名（関連URL①）が参加し、その取り組み（関連URL②）を話しました。また、SDGsセンターから林秀敏センター長も同席しました。後日、訪問を通して学んだことが書かれた丁寧な手紙が届けられました。</p> <p>SDGsに関連する学びは各校種で実施されていることから、こうした校種間交流が今後増えていくことが予想されます。今回、中学生は大学生や大学教員と交流することで多くを学んでいました。同様に、大学側も中学生を通して中学校でどのような学びをしているのかを知る機会となりました。こうした学びの機会が創出されることも、SDGsに関する学びの一つの成果とも言えるかもしれません。今後こうした機会を通して、学びの形骸が広がっていくことを期待したいと思います。</p>
活動の時期	2023年1月
関連URL	<p>① 本学学生がSDGs IDEA FORUM 2021で優秀賞を受賞！</p> <p>② 「SDGs実践隊～街歩きで見つける私たちのサステナビリティ～」の実績報告</p>



萩山中学校からの訪問



矢田中学校からの訪問

その他のSDG11に関する取り組みについては、以下のサイトをご確認ください。
<https://www.nagoya-cu.ac.jp/11/>

お問い合わせ

名古屋市立大学SDGsセンター事務局
 （企画推進課内）

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

Tel : 052-853-8806

Mail : ncu-sdgscenter@sec.nagoya-cu.ac.jp

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/>

